

試験研究成果普及情報

| 部門 | 野 菜 | 対象 | 普 及 |
|--|----------------------------------|-------------------|-----------|
| 課題名：セルリーにおけるかん水及び施肥方法の確立 | | | |
| <p>[要約]</p> <p>肥効調節型肥料を利用し、定植～収穫 10 日前まで pF1.8 (pF メータの深さ 20cm、ベットの高さ 25cm) で土壌水分を管理することで、追肥を省略しても、総重量及び調製重を大きくすることが可能である。</p> | | | |
| フリーワード | セルリー、かん水、肥効調節型肥料、リニア型肥料、シグモイド型肥料 | | |
| 実施機関名 | 主 査 | 農業総合研究センター暖地園芸研究所 | 野菜・メロン研究室 |
| | 協力機関 | 安房農林振興センター | |
| 実施期間 | 2002 年度～2004 年度 | | |

[目的及び背景]

県南地域におけるセルリー栽培は、施設栽培による2～3月どりを基本として行われているが、主産地の静岡県産と比較すると、収穫物の葉長、節間長、品質面でやや劣っているのが現状である。しかし、砂質、れき質土壌である静岡の産地とは異なり、当県南地域では、粘質土壌が多いため、高品質化には、当地域に適した独自のかん水や施肥方法が求められている。そこで、セルリーの品質をさらに向上させ、上位等級の収穫物割合を増加させるための、定植後のかん水管理、肥培管理法を確立する。

セルリー栽培では、栽培期間中、茎葉が通路まで繁茂するため、圃場内に入る追肥作業は困難である。そこで、肥効調節型肥料を用いて、追肥省略の可能性を検討する。また、市場からは、2 L サイズのセルリーが求められているので、調製重を大きくするためのかん水方法を検討する。

[成果内容]

- 1 リニア型肥料 40 日タイプにシグモイド型肥料を組み合わせることで、総重及び調製重が大きくなる。特にリニア型肥料 40 日タイプとシグモイド型肥料 100 日タイプを窒素成分で 50% ずつ混合すると増収効果が高い (図 1)。
- 2 定植～収穫 10 日前まで pF1.8 の高土壌水分条件下で管理することで (図 2)、総重量、調製重及び葉長は大きくなり、芯やけの発生率が低くなる (表 1)。
- 3 肥効調節型肥料を利用し、定植～収穫 10 日前まで pF1.8 で土壌水分を管理することで、追肥を省略しても、総重量及び調製重を大きくすることが可能である。

[留意事項]

- 1 施肥量は主要農産物等施肥基準 (2004) どおり窒素成分で 50kg とする。
- 2 pF1.8 (pF メータの深さ 20cm、ベットの高さ 25cm) での土壌水分管理は、粘質土地域に限る。

3 かん水は1株あたり1.5ℓで1週間に1～2回実施する。

4 試験データは粘質土地帯において得られたものである。

[普及対象地域] 県南地域(粘質土)

[行政上の措置]

[普及状況]

[成果の概要]

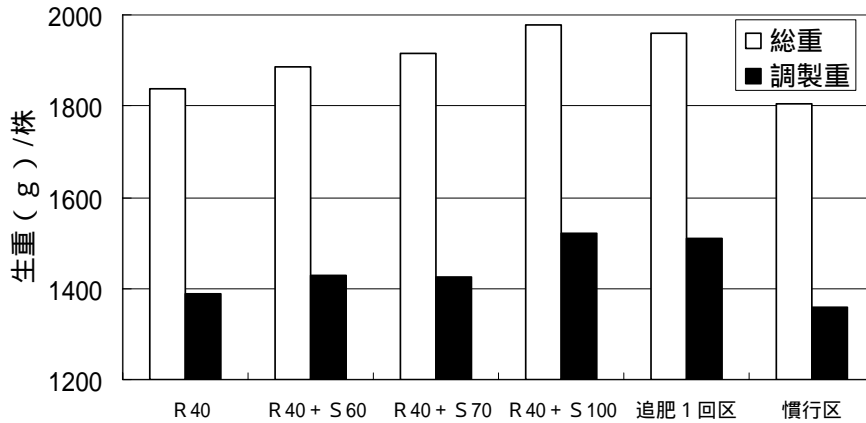


図1 肥料の組合せとセルリーの総重及び調製重(2002)

注) R:リニア型、S:シグモイド型。ただし、アルファベットの次の数字は肥料の溶出日数を示す。
 また、RとSの混合割合はN成分で50%だった。
 R40:エコロング40 S60:LSP60 S70:スーパーロング70 S100:スーパーロング100

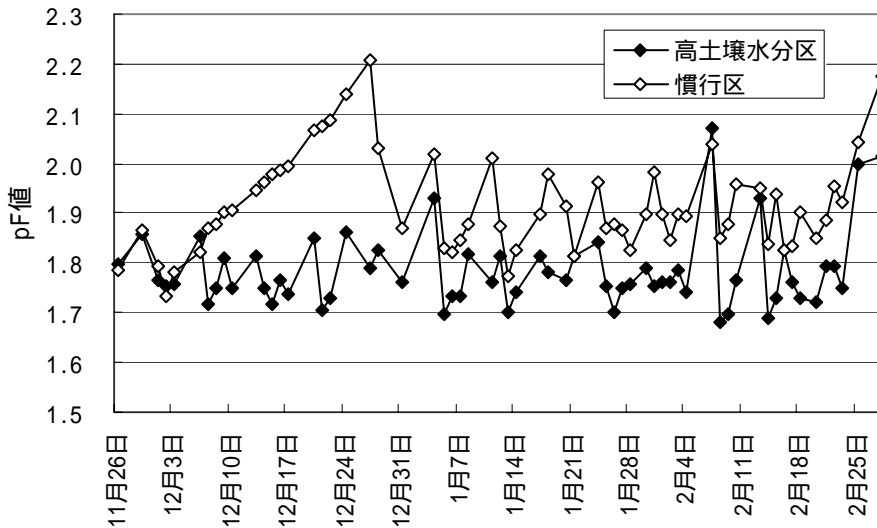


図2 各処理区におけるpF値の推移(2004)

注) 播種 8月18日 定植 11月10日

慣行区のかん水は、定植後25日までpF1.8、25日から50日までpF2.3、50日から収穫10日前までpF2.0で行った。

表1 かん水方法がセルリーの収量及び品質に及ぼす影響(2004)

| 試験区 | 総重量 (kg/株) | 調製重 (kg/株) | 可販茎数 (本数/株) | 葉長 (cm) | 第1節間長 (cm) | 葉色 (SPAD値) | 芯やけ (%) | 2L株率 (%) |
|--------|---------------|---------------|----------------|------------|---------------|---------------|------------|-------------|
| 高土壌水分区 | 2.7 | 2.1 | 11.2 | 71.0 | 29.9 | 34.9 | 15.0 | 76.0 |
| 慣行区 | 2.4 | 2.0 | 11.8 | 69.7 | 29.3 | 37.8 | 33.0 | 63.0 |

注) 調査株数は各区とも20株。芯やけの数値は発生株率。2L株とは、1.9kg～2.5kg未満の株。

[発表及び関連文献]

- 1 平成16、17年度暖地園芸試験成績書
- 2 平成16、17年度野菜試験研究成績概要集

[その他]

平成13年度試験研究要望課題(提起機関:安房農林振興センター)